

平成 26 年 8 月 6 日

故平井文雄葬儀：遺族代表挨拶

平井（高山）憲之

遺族を代表致しまして、皆様にご挨拶申し上げます。

本日は猛暑の中、ご多用にも拘わらず、養父（義父）平井文雄のために、ご会葬、ご焼香くださり、誠に恐縮に存じます。おかげさまで、お上人さまのお導きにより、滞りなく葬儀のお務めをすませることができました。誠にありがとうございます。皆様に心より厚く御礼申し上げます次第です。

故人は平成 26 年 8 月 3 日、天寿を全うし、黄泉の国へ旅立ちました。享年 93 歳でした。

故人は、生後 1 歳 3 ヶ月の時に関東大震災に遭遇し、家屋全壊の中で九死に一生を得ました。さらに、大学在学中に学徒兵として召集され、軍務を経験しております。任地は沖縄でした。最後は鹿児島県鹿屋にあった海軍第五航空艦隊司令部付きの海軍中尉でした。無事、復員できたのは、自動車の運転免許証を召集される前から持っていたこと、写真撮影が趣味であったこと、の 2 つのおかげであったと、生前、申しておりました。

その後、国家公務員として長年にわたって勤務し、30 年前の昭和 59 年春に定年退職、以来、悠々自適の生活を送っていました。特に、退職後の十数年間は内外の旅行を楽しんでいました。

故人は温厚かつ真面目な性格の持ち主でした。何事にも慎重で、リスクは極力避ける人でした。そして、家族や親族を、ことのほか大切

にしていました。自分のことは常に後回しにして、周りの人への気遣いを優先させる人でした。「平井さん、ありがとうございます」「文雄さん、ありがとうございます」という言葉を私自身、何回となく耳にしてきました。私自身も結婚以来、今日まで生活全般にわたって義理の父から変わらぬ手厚い支援を受け、学者・研究者としての半生を、つつがなく続けることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。故人に対して私と同じ思いを抱いている方々が多く、そのことは私ども夫婦の誇りでございます。

故人は、他方で実に器用な人でした。できるものは何でも手作りでした。ちなみに、この家の石造りの門と木製の引き戸は故人がすべて手作りで仕上げたものです。

故人は 4 年前に病に倒れ、以後、療養中心の生活を自宅で送っておりました。2 年前からは要介護度 5 の状態となり、担当のケアマネージャーさん、訪問看護師さん、ホームヘルパーさん、入浴サービス担当者さん、などに支えられた日々でした。心のこもった手際のよい介護サービスに対して、故人は常に感謝の言葉を忘れない人でした。最後の入院となった平成 26 年 7 月 20 日の前日までは、意識も比較的しっかりしており、会話も可能でした。日本橋三越で買い求めた牛肉を一人娘である喪主（平井緑）が丹精込めて料理し、それを毎日欠かさず昼食としておいしそうに食べていました。

精一杯、真面目かつ誠実に生き抜いた人生であったと思います。

生前、皆様から頂戴したご厚誼、ご厚情に対しまして改めて心より厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。私ども遺族一同に対しましても、変わらぬご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。